



日本遺産

# 北海道／江差町

素材研究  
(国内)

## 「ニシンの繁栄が息づく町」をストーリーに 道内初の日本遺産認定で交流人口拡大へ



漆喰壁の土蔵造りは激しい風雪を避けるため板で覆われています



天然の良港を築くかもめ島はニシン漁や北前船交易の舞台でした



華やかだったニシン漁を再現する無形民俗文化財「江差沖揚音頭」



ニシンを食材とした料理は江差ならではの楽しみ



江差追分会館では4月末から10月まで、江差追分などが実演されています

約370年前に起源を遡る「蝦夷地最古の祭り」である「姥神大神宮渡御祭」では山車が町内を練り歩きます

北海道の江差町が申請していた「江差の五月は江戸にもない」ニシンの繁栄が息づく町」は昨年4月、文化庁により「日本遺産」に認定されました。北海道では初めての認定となったストーリーを軸に、江差町は「江差文化体験交流づくり」を通じた観光プランの確立や雇用創出を目指す方針で、旅行業界にも地方創生に資する交流人口拡大の取り組みが求められることとなります。

### 「江差の五月は江戸にもない」

江差町は北海道でも早い時期に開港した港町で、北前船交易に伴って上方や北陸の生活様式や文化がもたらされ、江戸時代のニシン漁最盛期には「江差の五月は江戸にもない」と言われるほど繁栄を極めました。

日本海に面している江差町では、海岸線に沿った段丘の下側に、切妻屋根の建物が連なつて町並みを形成し、建物の暖簾や看板、壁などには、商家の屋号が掲げられ、往時の繁栄も偲ばれます。屋号の読み方や商売の内容などに思いを馳せながら散策する町歩きも、江差町ならではの楽しみです。

海側へ降りる坂道の小路に入ると、建物が土地の傾斜に沿って階段状に下がり、基礎となる石垣も建物ごとに段差が付けられています。木造に見える建物は漆喰壁の土蔵

造りで、冬の激しい風雪を避けるため板で覆われており、厳しい自然環境に耐える知恵を今に伝えてくれます。

「ニシンの繁栄が息づく町」のストーリーは、日本遺産の構成資産を辿ることで、21世紀を迎えた今も体感できます。

### 「北海道でも特異な魅力」の商品化を

江差町によると、同町の人口は1961年の約1万7000人をピークに年々減少が続き、2017年には約8000人に低下しています。ニシン漁の不漁や交通輸送体系の変化でかつての繁栄も翳りが進み、1997年には過疎地域自立促進特別措置法による「過疎地域」の指定も受けました。同町の人口は2060年には約2500人まで減少するという推計もあります。

2016年に策定された「江差町まちひとしごと創生総合戦略」では、「故郷を目指す若者が集うまち、江差」を目指し、「江差ブランド製品づくり」や「江差文化体験交流づくり」などを通じて「仕事をつくる」方針が打ち出されました。観光マネジメント人材の育成や体験観光メニューの構築などにより、2014年に32万6000人だった観光入込客数を2019年には40万人に拡大することを目指しています。

同町追分観光課は「旅行会社の皆さんには、歴史や町並みなど北海道でも特異な魅力を是非感じ取っていただき、商品化をお願いしたい」とアピールしています。